

報道関係者各位
プレスリリース

2026 年 10 月 6 日
シーオス株式会社

シーオス、次世代 RMS「Logiler Move」に新機能 複数 AMR 群の稼働状況をリアルタイムに可視化

～ 直感的な一元管理でダウンタイムを最小化し、DX を加速 ～

シーオス株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：松島聡、以下「シーオス」）は、マルチベンダー統合制御を実現する次世代 RMS（Robot Management System）「Logiler Move（ロジラームーブ）」において、メーカーの異なる複数台の AMR（自律型搬送ロボット）の位置と状態を直感的に一元管理できる新機能を搭載し、提供を開始いたしました。

■ 開発の背景：自動化の先にある「運用監視の高度化」へのニーズ

物流倉庫や製造現場においてロボットの導入が加速する中、「異なるメーカーのロボット（SLAM 式キーカートや TUGBOT2 など）の混在」や、「広大な施設・複数階層での稼働」が一般的になりつつあります。それに伴い、自動搬送を導入した現場において「各ロボットの稼働状況をいかに効率的に把握し、トラブルによる稼働停止（ダウンタイム）を防ぐか」という、運用フェーズにおける新たな課題が顕在化していました。

シーオスの「Logiler Move」は、メーカーの垣根を越えたロボットへの動的なタスク割り当てや、通路での自動譲り合い走行など、高度な「オーケストレーション（統合制御）」を提供してまいりました。今回、この統合制御プラットフォームをさらに進化させ、日々の監視業務における管理者の負荷を極限まで削減し、現場に行かずとも全容を把握できる「リアルタイム可視化機能」を新たに実装いたしました。

■ 新機能の特長と導入メリット

本アップデートにより、Logiler Move は「動かす」だけでなく、日々の「見守る・改善する」プロセスをも高度にシステム化し、工場・倉庫全体のさらなる省人化を推進します。

1. 機種を垣根を越えたフリート一元可視化

直感的な Web 画面やタブレットを通じ、広大な施設内であっても 1F および 2F といった階層に分けて、そのエリアごとにすべての AMR の「現在地」と「状態」を一元管理することができます。

2. ダウンタイムの最小化と稼働率の飛躍的向上

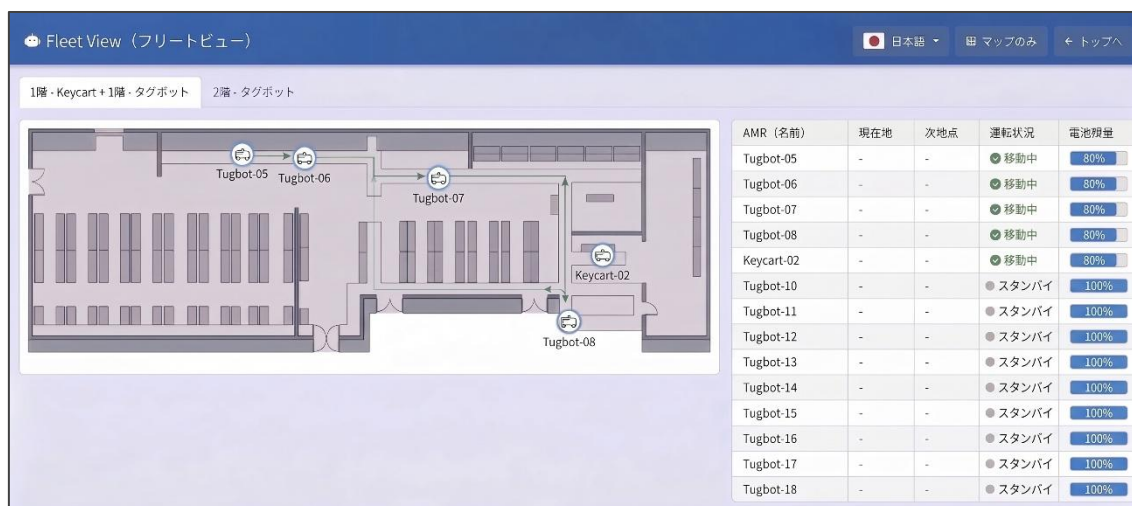
稼働状況や異常発生、バッテリー残量をリアルタイムで監視可能です。ロボットのスタックやエラーを即座に検知して早期対応を行うほか、計画的な充電へのアサインが可能となり、生産効率に直結するロボットの停止時間を大幅に削減します。

3. デジタル俯瞰による物流動線の継続的最適化

各ロボットの動きをデジタル上で俯瞰することで、通路の渋滞や搬送のボトルネックを視覚的に特定できます。このデータは、将来的な運行計画（ルートや台数配置）の改善に直結し、常に進化し続ける現場環境の構築をサポートします。

4. 最小限のリソースで実現する現場の DX 推進

高度に自動化された搬送業務のステータスをデジタル化することで、人間による確認作業の手間を徹底的に排除。最小限の監視員で多数のロボットを安定稼働させ、「個別最適」から「全体最適」へと向かう現場の DX を強力に後押しします。



Logiler Move ユーザが操作するタブレット画面（イメージ図）

■ 今後の展望

今回の「リアルタイム可視化機能」の実装は、シーオスが目指す「自律型ロジスティクス」への第一歩に過ぎません。

今後は「Logiler Move」を現場全体のパフォーマンスを極限まで引き上げる「次世代プラットフォーム」へと進化させていきます。

「人がロボットを見守る自動化」から、「システムが自律的に最適解を導き出し、ダウンタイムを未然に防ぐ自動化」へ。

シーオスは「Logiler Move」というプラットフォームの絶え間ない機能進化を通じて、マルチベンダーロボット群のポテンシャルを最大限に引き出し、次世代のスマート物流・製造現場の実現に寄与してまいります。

【企業情報】

シーオス株式会社 (SEAOS, Inc.)

- 所在地：東京都渋谷区恵比寿 1-18-18 東急不動産恵比寿ビル 6F
- 代表者：代表取締役社長 松島聡
- URL：<https://www.seaos.co.jp/>
- 事業内容：ロジスティクスコンサルティング、アプリケーションソフトウェア・ロボット (AMR) 開発、業務設計支援、業務受託、建設（コンストラクションマネジメント） ほか

<本件に関するお問い合わせ>

シーオス株式会社

PR 担当 福住、清水

Mail：pr@seaos.co.jp